

第1章 調査概要

1. 調査目的

本調査の目的は、家庭から排出される家庭系ごみ（生ごみ、その他の紙、雑がみ）、事業所などから排出される事業系ごみについて組成割合を調査し、ごみの排出状況を把握するとともに、更なるごみの減量化・資源化推進のための基礎資料とすることである。

2. 調査実施内容

① 家庭系（可燃）ごみ

- 【実施日】 平成30年2月22日（木）
- 【調査場所】 弘前地区環境整備センター（弘前市大字町田字筒井6-2）
- 【季節】 春・夏・秋・冬
- 【試料採取地域】 石渡地区
- 【集積所の形態】 ステーション方式（町会等）、ステーション方式（集合住宅）、毎戸方式
- 【備考】 ポリバケツ、集積ボックス、防鳥ネット、三方コンクリート
- 【可燃収集曜日】 月曜・木曜
- 【想定条件】 住居地域
- 【採取量】 200.7kg（集積所6か所分）
- 【気温（平均）】 -0.1°C
- 【収集時間】 10分

3. 調査手順

（1）試料の回収

① 家庭系（可燃）ごみ

調査対象の集積所から市職員がごみを回収し、指定の場所に搬入する。

② 家庭系ごみ厨芥類（生ごみ）の未使用（食品ロス）

①で調査した厨芥類（生ごみ）の未使用（食品ロス）を回収し、指定の場所に搬入する。

（2）分類及び重量の記録

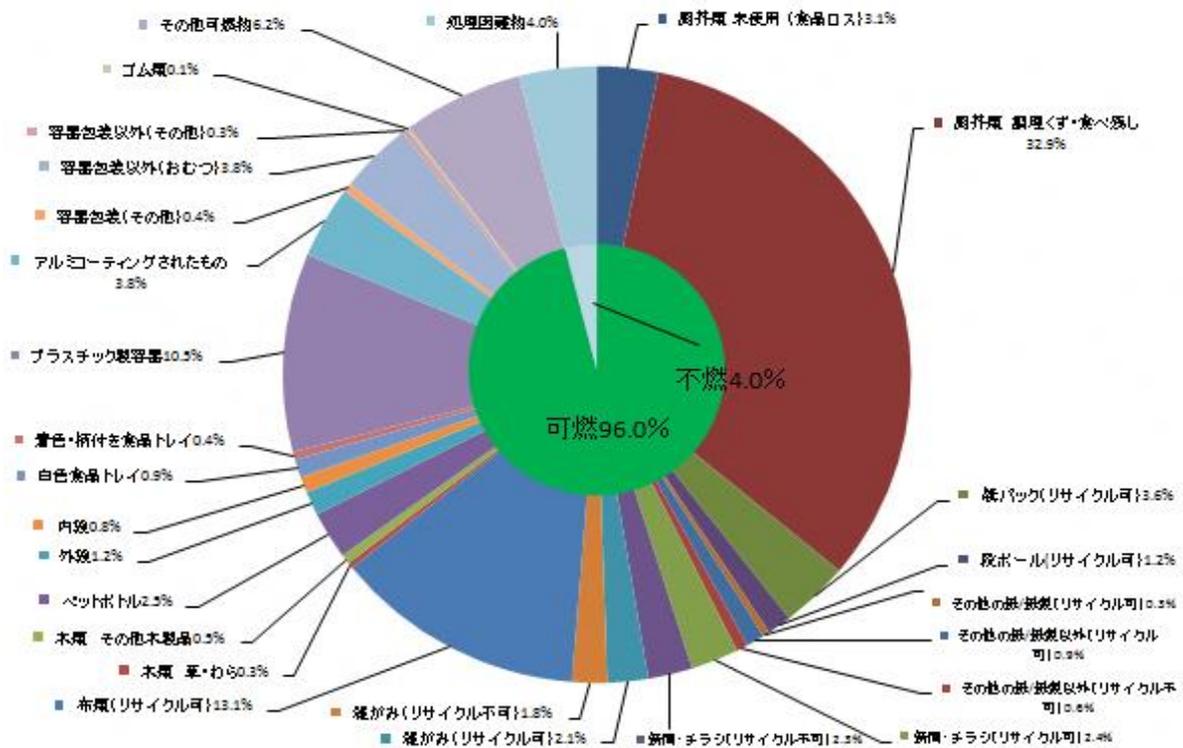
搬入された試料の分類を行い、組成区分ごとに重量を計量し、記録する。

第2章 調査結果

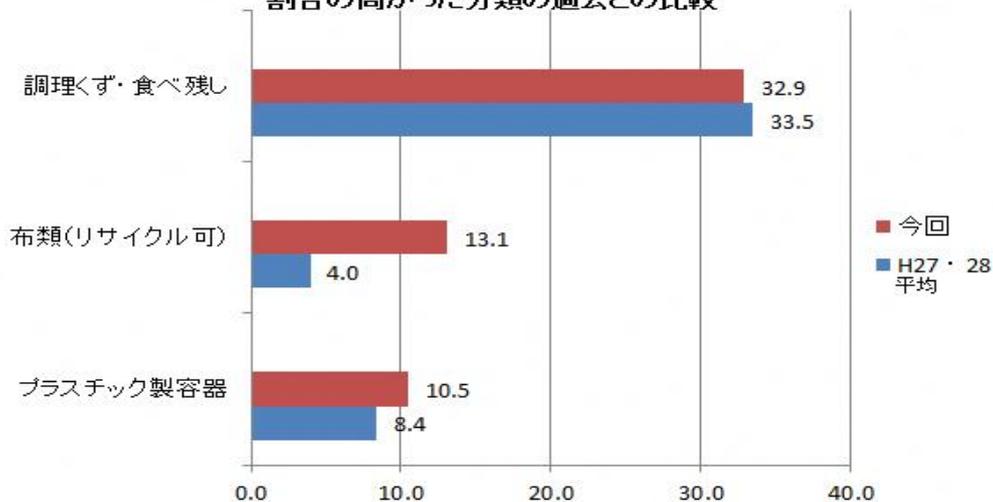
① 家庭系（可燃）ごみ

今回実施した組成分析調査の調査結果を別表に示した。

重量比で10%以上の大分類の組成項目は「厨芥類」（36.0%）、「プラスチック類」（24.6%）、「紙類」（15.2%）、「布類」（13.1%）の4種であり、全体の約88.9%を占めていた。個別に見ると「厨芥類（生ごみ）調理くず・食べ残し」（32.9%）、「布類（リサイクル可）」（13.1%）、「プラスチック（プラスチック製容器）」（10.5%）の割合が高かった。



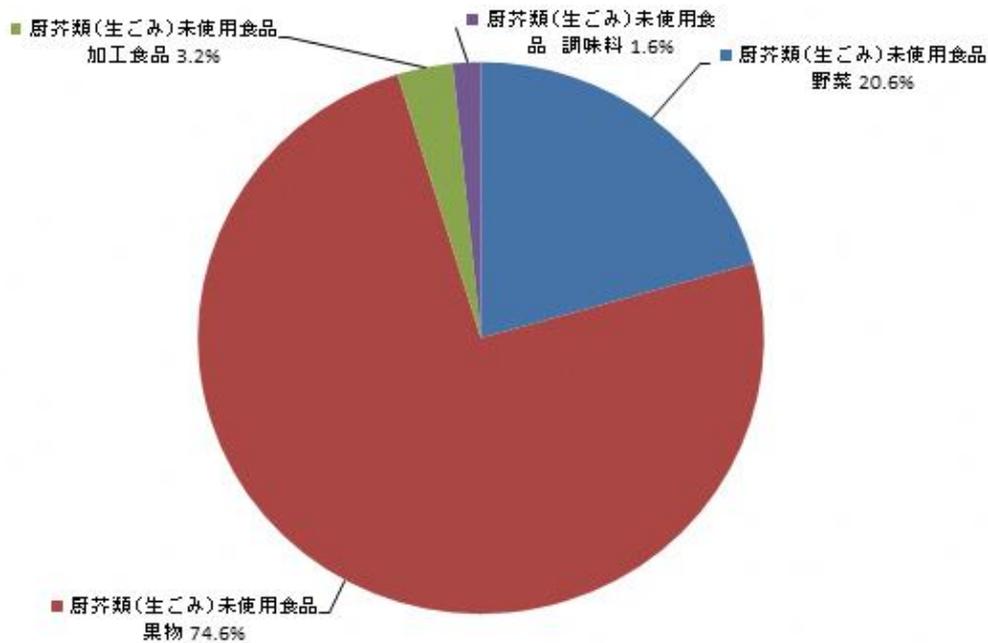
割合の高かった分類の過去との比較



② 家庭系（可燃）ごみ 厨芥類 未使用・食品ロス

今回実施した組成分析調査の調査結果を別表に示した。

厨芥類（生ごみ）の未使用（食品ロス）についてさらに細分化し調査した。



第3章 分別適正率

①家庭系（可燃ごみ）

分別適正率とは、家庭系（可燃）ごみに出されたごみ総量から、紙類・布類のリサイクル可のもの、ペットボトル、不燃物、処理困難物を差し引いた割合のことである。

今回の調査では分別適正率は 69.9%（平成 27～28 年度平均 85.8%）となった。

算定式

$$\begin{aligned} \text{分別適正率} &= \text{総量} - \text{【紙類（リサイクル可）} + \text{布類（リサイクル可）} + \text{ペットボトル} + \\ &\quad \text{不燃物} + \text{処理困難物】} \\ &= 100\% - (10.5\% + 13.1\% + 2.5\% + 0.0\% + 4.0\%) = 69.9\% \end{aligned}$$